

大石良雄公（河野天籟）

嘗胆臥薪磨宝刀 戲花醉月志何豪
寒宵衝雪斬仇首 義烈高於富岳高

作者 一八六一年四月二十四日に熊本県の細川藩御殿医・
河野道仲の三男として生まれる。熊本師範学校第一回の卒
業生で球磨郡多良木小学校長を拝命後、県下の小学校長
を歴任。昭和十六年第二次世界大戦勃発の年に没した。享
年八十一歳。

解説 大石良雄を讃えた詩。

花に 戯れ 月に 酔う 志 何ぞ 豪なる
はな に たわむ つき に よ こころざし なん ごう
嘗胆 臥薪 宝刀を 磨き
しようたん がしん ほうとう みがき

寒宵 雪を 衝いて 仇首を 斬る
かんしょ ゆきを きゅうしゅ きゅうしゅを き

義烈 富岳の 高きより 高し
ぎれつ ふがくの たか き より たか し

語釈 ※臥薪嘗胆＝目的を達するため苦労を重ねること。
※寒宵＝寒い日の宵。※仇首＝かたきの首。上野介の首。

※義烈＝義を守る心が非常に強いこと。※富岳＝富士山。

通釈 臥薪嘗胆し、敵を欺く戯れを行い油断させ、十二月
十四日に吉良邸に討ち入りし見事仇討ちを成し遂げた行
為は富士山の高さよりも高き功であると言わざるを得な
い。